



令和元年9月3日

報道機関 各位

富山大学での日本原子力学会 2019年秋の大会開催について

2019年9月11日から13日の会期で、日本原子力学会2019年秋の大会が本学五福キャンパスにおいて開催されます。この学会では、原子力に関連する多くの研究発表がなされます。この学会中に全国から集まる参加者への富山県のPRも兼ね、高岡市万葉歴史館館長の坂本 信幸様より、「越中万葉の世界 大伴家持と富山」の演題で、特別公演を行っていただきます。この講演はどなたでも無料で聴講できる講演です。学会中の他の見どころ、内容の詳細は、別紙をご参照いただければ幸いです。

つきましては、取材・報道方どうぞよろしくお取り計らいお願い申し上げます。

【本件に関する問い合わせ先】
富山大学 研究推進機構
水素同位体科学研究センター

2019年秋大会 現地実行委員長
波多野 雄治
TEL. 076-445-6921

「2019 年秋の大会」企画セッション 見どころ

特別講演 〔無料公開〕

1. [2A_PL02] 越中万葉の世界 大伴家持と富山 (高岡市万葉歴史館) 坂本 信幸
(9月12日(木) 11:00 ~ 12:00, A会場) 座長 (富山大) 波多野 雄治

【見どころ】

富山県の「ふるさと文学」の一つとして、『万葉集』があげられます。というのは、万葉集の編纂に大きな役割を果たした大伴家持が天平 18 年 (746) に越中国守として赴任し、5 年間在任した間に 223 首もの歌を詠み残しているからです。家持の作 223 首を含めて、「越中万葉」と称される歌数は 337 首を数え、万葉集所出の地名数も、近畿圏以外で最も多いのが富山県です。「越中万葉」は越中の風土、ことば (方言・孤語)、風俗など古代の越中地方の情報を豊かに残しています。しかも、越中万葉歌の残された巻は、日時が記載された歌が多く、その実態に具体性があります。そのような、越中万葉の世界を、代表的な歌を中心にご紹介します。

招待講演

1. [2A_PL01] 人材育成と原子力利用 (原子力委員会) 岡 芳明
(9月12日(木) 09:45~10:45, A会場) 座長 (会長, JAEA) 岡嶋 成晃

合同セッション

1. [2F_PL] 原子炉における機構論的限界熱流束評価手法」研究専門委員会, 熱流動部会, 計算科学技術部会

原子炉における限界熱流束評価の現状とこれから

(9月12日(木) 13:00 ~ 14:30, F会場) 座長 (電通大) 大川 富雄

- (1) 「原子炉における機構論的限界熱流束評価手法」研究専門委員会の概要 (JAEA) 吉田 啓之
(2) 軽水炉設計における CHF 評価手法の現状 CHF 相関式 (MHI) 淀 忠勝
(3) 軽水炉設計における CHF 評価手法の現状 サブチャンネル解析 (日立) 成島 勇氣
(4) 限界熱流束の機構論的評価に向けた研究 DNB (JAEA) 小野 綾子
(5) 限界熱流束の機構論的評価に向けた研究 液膜ドライアウト (日立) 上遠野 健一

【見どころ】

原子力発電所の燃料における限界熱流束は、熱水力設計限界値の一つであり、現在は実際の燃料を模擬した大規模試験などで評価されているが、試験依存性を軽減するため、数値シミュレーションなどに基づく機構論的なアプローチによる予測が期待されているものの未だ実現していない。本セッションでは、機構論的な限界熱流束評価に向けて知見の整理を目的として熱流動部会及び計算科学技術部会の協力の下に設立された「原子炉における機構論的限界熱流束評価手法」研究専門委員会の概要、原子炉設計における評価の現状、及び限界熱流束の機構論的評価に向けた取り組みや課題について、次世代を担う若手研究者により紹介する。

1. [2H_PL] 海外情報連絡会、材料部会、核燃料部会
フランスのエネルギー政策とジュールホロビッツ材料照射試験炉
(9月12日(木) 13:00 ~ 14:30, H会場) 座長 (東大) 阿部 弘亨

- (1) フランスのエネルギー政策 (駐日フランス大使館, フランス原子力庁) Sunil Felix
(2) ジュールホロビッツ材料照射試験炉と照射実験設備、照射計画について
(フランス原子力庁) Christian Gonnier

【見どころ】

フランスのエネルギー政策動向として、最近、再エネ及び省エネの推進と原子力発電比率の低減を掲げる「エネルギー移行法」の制定(2015年)以降2回目となる「エネルギー多年度計画(PPE)」が策定されている。またフランスでは、ハルデン炉やJMTRが廃炉を決めた中で、今後世界的にも貴重となる材料照射試験炉ジュールホロビッツ炉(JHR)の建設が進められている。本セッションでは、まずフランスの原子力を中心とする最新のエネルギー政策動向を紹介する。次に、JHRの建設及び設備開発の現状、照射試験設備の詳細や材料照射計画について紹介する。

委員会セッション

1. [2A_PL03] 理事会【社会・環境部会共催】

社会課題への貢献に向けた学会の役割 60周年シンポジウムから

(9月12日(木) 13:00 ~ 14:30, A会場) 座長(日立) 西野 由高

- (1) 60周年シンポジウムから (会長, JAEA) 岡嶋 成晃
(2) 地球環境問題と原子力 (東大) 小宮山 涼一
(3) 将来の原子力の展望と学会の役割 (副会長, 東大) 山口 彰
(4) 総合討論 (前会長, MHI NS エンジ) 駒野 康男, (関西大) 土田 昭司, 全講演者

【見どころ】

日本原子力学会は今年創立60周年を迎えました。4月25日には60周年シンポジウムを開催し、東京電力福島第一原子力発電所の事故への対応を含む学会活動を振り返るとともに、原子力の平和利用に対する信頼と新たな発展への展望を拓くために、各分野から基調講演をいただきました。本セッションでは、シンポジウムでの議論やアンケートの声も踏まえて、今後の学会活動のあり方にフォーカスして意見交換します。学会が今後10年(70周年までに)特に注力すべき取り組みを、(1)温暖化などの地球環境問題への原子力が貢献できるポテンシャルや、(2)国のエネルギー政策での原子力の位置づけと学会の役割などの側面も含めて討論します。

2. [20_PL] 倫理委員会

技術の現場と倫理との相互作用 AI技術を例に

(9月12日(木) 13:00 ~ 14:30, O会場) 座長(JAEA) 大場 恭子

- (1) 趣旨説明 技術と倫理との相互作用 (電中研) 菅原 慎悦
(2) 技術開発に倫理を組み込むこと 人工知能の事例から (名大) 久木田 水生
(3) 保全分野におけるAI導入に向けた取組事例 (東大) 出町 和之
(4) パネル討論

【見どころ】

倫理的議論からの洞察をより深く反映した原子力技術とは、もしそれが可能であるとすれば、どのような姿たりえるだろうか。それを方向付けるための技術と倫理との相互作用は、どのように為されるべきだろうか。近年発展の著しい人工知能(AI)分野では、学協会や産業界が倫理専門家を巻き込んで議論を重ね、独自の倫理原則や行動指針等を策定し、技術の目指すべき方向性を見定めようとする動きが盛んにみられる。本セッションでは、AI分野における技術と倫理の相互作用の経験を踏まえつつ、今後の原子力技術をめぐる技術専門家や実務者と倫理専門家との協働のあり方、職能団体や学協会における倫理委員会の役割等について議論を深めたい。

3. [2G_PL] 標準委員会

外部ハザードにかかる学協会規格の整備をどう進めるか？

(9月12日(木) 13:00 ~ 14:30, G会場) 座長(東大) 関村 直人

- (1) 外部ハザードに対する原子力安全の基本的考え方 (JAEA) 高田 孝
- (2) 外部ハザードに係る国際動向 (規制庁) 小林 恒一
- (3) 外部ハザードに係る国内外の対応状況 (J-POWER) 小林 哲朗
- (4) 外部ハザード学協会規格が備えるべき事項 (原安進) 成宮 祥介
- (5) 総合討論

【見どころ】

東電福島第一原子力発電所事故の教訓から、地震、津波のみならず外部ハザードに対する安全向上の取り組みが規制、事業者、研究機関、メーカー等で鋭意進められてきた。不確実さの大きい外部ハザードに対して今後、継続的に安全性を向上させていくため、新知見の適切な反映と実行可能で合理的なリスク情報を活用した取り組み(対策とマネジメント)が必要である。標準委員会は、外部ハザードにかかる学協会規格整備及び評価手法・対策技術の研究開発の進展のために、本企画セッションで、基本的な考え方、国内外の外部ハザード対策の現状分析、そして規格に必要な事項について意見交換を行う。

4. [3C_PL] 福島第一原子力発電所廃炉検討委員会

「福島第一原子力発電所廃炉検討委員会」現地状況及び活動報告

(9月13日(金) 13:00 ~ 14:30, C会場) 座長(東大) 関村 直人

- (1) 福島第一原子力発電所廃炉作業の現状 (東電 HD) 鬼束 俊一
- (2) 福島第一原子力発電所の廃炉のための遠隔技術 (東大) 浅間 一
- (3) 英知事業・国際協力の取り組み (JAEA CLADS) 岡本 孝司
- (4) 廃炉検討委員会の取り組み (法政大) 宮野 廣

【見どころ】

福島第一原子力発電所(1F)の廃炉は、かつて経験のない技術的な挑戦を伴い、産官学一体となり、長期にわたり取り組んでいくべき事業である。福島第一原子力発電所廃炉検討委員会(廃炉委)では、1F廃炉に向けた多くの課題を抽出しその解決策案を提示するため、専門家間での議論の場を提供し技術論の深耕を図っている。本企画セッションでは、1Fの廃炉作業の現状、廃炉のための遠隔技術開発の状況、国際協力の取り組み、廃炉委の取り組みについて紹介し議論する。

部会・連絡会セッション

1. [1J_PL] 炉物理部会

SMR (Small Modular Reactor) をめぐる状況と課題

(9月11日(水) 13:00 ~ 14:30, J会場) 座長(JAEA) 大泉 昭人

- (1) SMR 開発における炉物理 (東工大) 小原 徹
- (2) プラントメーカーにおける取り組み状況 (日立 GE) 木藤 和明, (MHI) 木村 芳貴, (東芝 ESS) 浅野 和仁

【見どころ】

原子力業界内外で近年関心が高まっている小型モジュラー炉(SMR)に関する講演・議論を予定している。SMRは、投資リスクが小さい、受動的安全性能が高い、遠隔地での利用や柔軟性を有するエネルギー供給が可能といった

従来の小型の動力炉の利点に加え、量産効果により製造・建設コストをできるだけ小さくできるように開発が進められている。本企画セッションでは、はじめに SMR 開発における炉物理の役割について概観した後、現在のプラントメーカーによる取組み状況の紹介を行う。

2. [20_PL] 核融合工学部会

日米科学技術協力事業 PHENIX 計画の成果

(9月13日(金) 13:00 ~ 14:30, L会場) 座長(富山大) 波多野 雄治

- | | |
|-------------------------------|--------------|
| (1) PHENIX 計画の概要 | (阪大) 上田 良夫 |
| (2) 中性子照射タングステンの熱・機械的特性 | (京大) 檜木 達也 |
| (3) 中性子照射タングステン中の水素同位体挙動 | (静岡大) 大矢 恭久 |
| (4) He ガス冷却タングステンダイバータの総括熱流応答 | (京大) 横峯 健彦 |
| (5) 今後の日米協カプロジェクト研究の展開 | (富山大) 波多野 雄治 |

【見どころ】

PHENIX 計画(2013~2018年)では、原型炉での高熱流束・粒子負荷に耐え得るプラズマ対向機器(PFC)概念の構築に向け、以下の研究を実施した。

1. He ガス冷却系における熱流現象の解明と冷却性能の改善
2. タングステン(W)系材料(合金、組織制御材、接合材等)の熱負荷環境下での健全性評価
3. W系材料の熱伝導および強度特性に及ぼす高温(500℃~1200℃)中性子照射影響の解明
4. 高温中性子照射W系材料中のトリチウム挙動の解明
5. PFCの健全性(除熱性能10 MW/m²を目安)と安全性(トリチウム挙動)の評価、並びに開発課題の明確化
本講演では、6年間の活動を総括する。

3. [1B_PL] バックエンド部会

深地層の研究施設におけるこれまでの成果と今後への期待

(9月11日(水) 13:00 ~ 14:30, B会場) 座長(北大) 小崎 完

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------|
| (1) 原子力機構における深地層の研究施設計画の成果の概要 | (JAEA) 仙波 毅 |
| (2) 原環センターにおける深地層の研究施設を活用した研究開発について | (原環セ) 小林 正人 |
| (3) 電中研における深地層の研究施設を活用した研究開発について | (電中研) 幡谷 竜太, 田中 靖治, 長谷川 琢磨 |
| (4) 海外施設での共同研究例と今後への期待 | (NUMO) 藤崎 淳 |
| (5) 総合討論 | |

【見どころ】

我が国における深地層の研究施設計画は、原子力機構の東濃地科学センター及び幌延深地層研究センターにおいて、それぞれ平成8年、平成13年から開始され、現在、地下の坑道を利用した調査研究が行われている。また、NUMOは海外の施設を利用した国際共同研究に参加しており、その成果も着実にあげてきている。一方で、原子力機構の平成31年度の計画によれば、瑞浪超深地層研究所については、坑道の埋め戻しに着手することとされるなど、今後、地下研究施設を用いた研究開発環境の変化が予想される。

このような状況を踏まえ、現在までに、我が国の深地層の研究施設において得られた成果や果たしてきた役割を改めて確認するとともに、国内外の地下研究施設での研究開発事例なども参照しながら、今後の深地層研究の在り方について、バックエンド部会の立場から幅広く議論を行う。

4. [2N_PL] 放射線工学部会

放射線工学におけるアンフォールディング研究の現状と将来展望

(9月12日(木) 13:00 ~ 14:30, N会場) 座長(東大) 高橋 浩之

- (1) 放射線計測におけるアンフォールディング手法の過去・現在・未来? (名大) 井口 哲夫
- (2) 精密な応答関数を用いたアンフォールディングの高度化とその応用 (三菱電機) 東 哲史
- (3) 環境情報を用いた線源分布アンフォールディング技術 (JAEA) 鳥居 建男

5. [[1M_PL] 加速器・ビーム科学部会
モンテカルロシミュレーションと加速器

(9月11日(水) 13:00 ~ 14:30, M会場) 座長(産総研) 豊川 弘之

- (1) Geant4 シミュレーションツールキットとそのアプリケーション開発例 (富山高専) 阿蘇 司
- (2) J-PARC 加速器におけるモンテカルロシミュレーションの利用 (JAEA) 山本 風海
- (3) ミュオン加速の検討 (東芝 ESS) 宮寺 晴夫

【見どころ】

モンテカルロシミュレーションとは、ある選択をする際に、その確率を乱数で決めるシミュレーション手法です。実際に実験装置を作ったり、実験条件を様々に替えたりすることは大変に手間と費用を要しますが、モンテカルロシミュレーションを使うと、多くのアイデアをコンピュータ内で検証することができます。今では加速器施設の設計に欠かせないツールです。講演ではモンテカルロシミュレーションを手軽に体験できるツールキット開発、大強度陽子加速器施設 J-PARC 設計への応用、ミュオン加速器設計への応用についてお話し頂きます。初心者から専門家まで多くの方楽しんで頂きたいと思えます。

6. [3D_PL] 保健物理・環境科学部会

中長期の保健物理・環境科学研究の方向性 新たな学術連携の模索

(9月13日(金) 13:00 ~ 14:30, D会場) 座長(東大) 飯本 武志

- (1) 量研(QST)の放射線影響・被ばく医療研究 (JAEA, 名大) 寺阪 祐太
機構誕生から3年目の再改革(QST ver.2)を経て目指すもの
- (2) 保健物理・環境科学研究における原子力機構の役割 福島事故を経験して (JAEA) 植頭 康裕
- (3) 総合討論 (JAEA) 普天間 章

【見どころ】

東京電力福島第一原子力発電所の原子力災害から8年が経過し、保健物理・環境科学分野をとりまく環境は変わりつつある。基礎研究を含む継続的に地に足のついた研究には、国立研究開発法人をはじめとする大規模研究所の役割は重要で期待も高い。福島災害以前から保健物理・環境科学分野を牽引してきたQST、JAEAから、当分野に焦点を絞った研究の現状、組織体制および中長期の研究計画を共有することによって、相互連携のさらなる強化の可能性や、その他の組織団体が積極的に取り組むべき課題などの抽出を目指す。

7. [30 原子力発電部会
_PL]

新検査制度の本格運用に向けた対応状況について

(9月13日(金) 13:00 ~ 14:30, O会場) 座長(阪大) 北田 孝典

- (1) 新検査制度の本格運用に向けた関西電力・大飯発電所における対応状況について (関西電力) 榎本 晋嗣
- (2) 新検査制度の本格運用に向けた東京電力HD・柏崎刈羽原子力発電所における対応状況について (東電HD) 藤曲 久元

【見どころ】

この試運用においては、PI測定(パフォーマンスベースの検査)、CAP(改善措置活動/是正措置プログラム)、コ

ンフィグレーション管理（構成管理）等、種々の取り組みがなされており、また、これらに関連して、事業者の意識の向上・定着についても、本格運用に向け、準備が進んでいる状況である。

本企画セッションでは、上記の試運用を踏まえた課題認識、また、各種取り組みについての対応状況、及び今後の展望等を、代表プラント（PWR：大飯発電所，BWR：柏崎刈羽原子力発電所）の事業者から具体的に紹介する。

8. [1K_PL] 計算科学技術部会

不確かさの有効活用によるシミュレーションの信頼性確保

（9月11日(水) 13:00～14:30, K会場） 座長（JAEA）田中 正暁

- (1) シミュレーションの信頼性確保及び不確かさの活用 (東芝 ESS) 中田 耕太郎
- (2) 統計的安全評価における信頼性確保及び不確かさの活用 (東電 HD) 工藤 義朗
- (3) 放出源の有効高さ評価における信頼性確保及び不確かさの活用 (電中研) 佐田 幸一

【見どころ】

原子力分野でのシミュレーションの信頼性確保及びそれを支えるモデルV&Vは、不確かさの取扱いと合わせて原子力関連施設の設計、建設及び運転に適用される各技術分野のシミュレーションにとって重要なテーマである。

本セッションでは、モデルV&V及び不確かさの取扱いを柱としたシミュレーションの信頼性確保に関わる原子力学会標準（ガイドライン）を代表事例として、個別分野でのモデルV&Vへの展開状況、今後の取組み、シミュレーションの信頼性確保に必要なアクション等について最新の動向を議論する。

9. [2I_PL] 水化学部会

水化学ロードマップフォローアップの状況と概要

（9月12日(木) 12:40～14:30, I会場） 座長（東北大）渡邊 豊

- (1) 背景、全体概要および深層防護との関連付け (電中研) 河村 浩孝
- (2) 安全基盤研究（被ばく低減、SCC抑制、燃料性能維持） (原電) 杉野 亘
- (3) 共通基盤技術（FP挙動関連） (東芝 ESS) 高木 純一
- (4) 事故時対応の水化学 (日立 GE) 長瀬 誠

【見どころ】

2009年に発行した水化学ロードマップの改訂作業が完成に近づいたので、その概要を紹介する。今回の改訂では、構造材料の高信頼化、燃料の高信頼化などに関し、

深層防護の考え方を念頭に置き、自主的安全性向上の視点を重視して、新たな研究・技術課題の抽出を行った。また、1F事故後の活動を踏まえ、「核分裂生成物挙動」や「事故時対応の水化学」等についても新たに取り上げ、事故の拡大抑制技術の高度化ならびに事故炉の廃炉推進に向けて取り組むべき課題について検討した。当日の総合討論では原案に対する参加者からのご意見を伺いたい。

10. [1G_PL] 原子力安全部会

ソースターム評価に関わる諸課題と今後の取組み

（9月11日(水) 13:00～14:30, G会場） 座長（東大）関村 直人

- (1) 過酷事故解析とソースターム (規制庁) 梶本 光廣
- (2) ソースタームに関連する福島第一事故の未解明点 (名大) 山本 章夫
- (3) ソースタームに関連する安全研究の課題 (JAEA) 中村 秀夫

11. [2J_PL] 新型炉部会

今後の新型炉サイクル開発への提言（私たちの経験を踏まえて）

（9月12日(木) 12:40～14:30, J会場） 座長（日本原電）小竹 庄司

- (1) 核燃料サイクル開発への提言 河田 東海夫

- (2) 高速炉開発への提言
- (3) 高温ガス炉開発への提言
- (4) 総合討論

柳澤 務
(JAEA) 伊与久 達夫

【見どころ】

新型炉の実用化開発を進めているロシア、インド、中国などの国々がある一方、軽水炉を含む他のエネルギー資源の動向と新型炉の民間提案の多様な炉概念の研究開発を進めている米国や英国がある。2011年の東京電力福島第一原子力発電所事故以降、我が国は原子力発電への依存度を可能な限り低減するとの政策判断により、将来の新型炉開発は不透明になっている。本セッションでは、新型炉燃料サイクルの黎明期を支えた原子力研究者OBに、数十年の経験を踏まえて、今後の開発に対する提言を頂き、今後の新型炉開発について討論を行う。

12. [10_PL] リスク部会

リスク評価におけるベイズ手法活用について

(9月11日(水) 13:00 ~ 14:30, O会場) 座長 (JAEA) 丸山 結

- (1) ベイズ流アプローチのリスク評価への応用 (東大) 山口 彰
- (2) ベイズ統計による信頼性パラメータ評価 (電中研) 吉田 智朗
- (3) ベイズ手法を用いた機器フラジリティ評価 (東大) 高田 孝
- (4) ソースターム解析におけるベイズ統計の応用 (JAEA) 鄭 嘯宇

【見どころ】

定量的なリスク評価は、原子力施設の特性と脆弱性を定量的に把握する有効な方法として、事業者の自主的な安全性向上活動、及び、その評価の届出、新検査制度での指標などに活用されつつある。

定量的なリスク評価においては、様々なパラメータを利用するが、パラメータ算出において十分なデータを集められないケースが存在する。

データ数が少ない場合のパラメータの確からしさを高める手段としてベイズ手法の適用が多様な分野で検討されている。本セッションでは、リスク評価に活用するパラメータにベイズ手法を適用した活動を紹介し、ベイズ手法の有効性、課題に関して議論を行う。

13. [1I_PL] 核不拡散・保障措置・核セキュリティ連絡会

保障措置に関する技術開発の現状と今後の課題

(9月11日(水) 13:00 ~ 14:30, I会場) 座長 (京大) 宇根崎 博信

- (1) 核燃料サイクルに関する保障措置の国際動向と技術開発二ーズ (JAEA) 堀 雅人
- (2) 次世代炉、次世代燃料サイクルに関する保障措置・計量管理技術開発 (東工大) 相楽 洋

【見どころ】

第4世代原子炉のうち、開発が先行しているのはナトリウム冷却高速炉と高温ガス炉であり、国際的に開発競争が加速していると同時に、国際協力も活発化してきている。そこで、本セッションでは、ナトリウム冷却高速炉と高温ガス炉の国際協力（それぞれ、米・仏・露と米・ポーランド）の現状についてわかりやすく紹介する。一方、我が国はイノベーションの創出を通じた技術開発に取り組み、国際競争力を強化する必要がある。そこで、国内の産官学による研究開発の活性化のため、それぞれの炉について、イノベーションの創出にむけて、今後の研究開発課題を具体的に挙げる。

総合講演・報告

- 1. [1N_PL] 東京大学弥生研究会
レーザーの特長を利用した研究開発 IV

(9月11日(水) 13:00 ~ 14:30, N会場) 座長(東大) 長谷川 秀一

- (1) kW級CWレーザーを用いた表面クリーニング技術の開発と除染適用の試み
(光産業創成大学院大) 藤田 和久
- (2) 過酷環境下での遠隔レーザー分析技術 (QST) 大場 弘則
- (3) レーザー法による原子炉厚板鋼材切断技術の開発 (QST) 田村 浩司

2. [2B_PL] 「NUMO 包括的技術報告書レビュー」特別専門委員会[バックエンド部会共催]

「NUMO 包括的技術報告書レビュー特別専門委員会」活動状況

(9月12日(木) 13:00 ~ 14:30, B会場) 座長(電中研) 杉山 大輔

- (1) 「NUMO 包括的技術報告書レビュー特別専門委員会」活動状況
(原安協) 朽山 修, (JAEA) 天野 健治, (岡山大) 市川 康明,
(東海大) 若杉 圭一郎, (東海大) 東北大

3. [2M_PL] 「シグマ」特別専門委員会[核データ部会]

「シグマ」特別専門委員会 2017、2018 年度活動報告

(9月12日(木) 13:00 ~ 14:30, M会場) 座長(東工大) 千葉 敏

- (1) 核データロードマップについて (JAEA) 国枝 賢
- (2) 放射線計測分野への機械学習の応用 —核データ測定とガンマ線分析の例— (九大) 金 政浩
- (3) 中性子捕捉療法と核データ研究 (東工大) 片淵 竜也
- (4) 「シグマ」調査専門委員会の活動予定 (JAEA) 深堀 智生

4. [3I_PL] 「核燃料サイクルの成立性」研究専門委員会

シナリオ・研究開発・人材育成を俯瞰した核燃料サイクルの成立性の検討状況

(9月13日(金) 13:00 ~ 14:30, I会場) 座長(電中研) 井上 正

- (1) 本委員会の設立趣旨と目的 (東京都市大) 佐藤 勇
- (2) 多様な原子力発電シナリオに対する諸量評価 (JAEA) 西原 健司
- (3) 原子力需要の成長またはゼロ成長シナリオにおける評価 (電中研) 太田 宏一
- (4) 原子力需要の減少シナリオにおける評価 (東大) 斉藤 拓巳
- (5) 原子力需要シナリオとその研究・開発項目 (MHI) 佐藤 聡

ポスターセッション [無料公開]

1. 学生連絡会ポスターセッション

(9月12日(木), 共通教育棟 1F A21, A22)

- ・ 12:00~ ポスター受付開始
- ・ 13:00~17:15 コアタイム(審査, 投票)
その後審査, 投票結果をもとに各賞決定
- ・ 17:30~18:00 表彰式

【見どころ】

例年に引き続き今回も学生連絡会企画の学生ポスターセッションを行います。学生ポスターセッションは発表内容に制約がなく、学生であればどなたでも発表可能となっています。そのため、学部から博士まで幅広い学年の学生が、十人十色の研究内容はもちろんのこと団体活動の報告など様々な発表を行います。また無料公開セッションであ

るのでなたでもご覧可能であり, 参加学生同士のみならず, 学生と先生方やご覧いただいた方とのネットワークを広げることのできる良い機会ともなっております。皆さまお手隙の際には是非お立ち寄りください。

● 問合せ先	一般社団法人 日本原子力学会 「2019 年秋の大会」事務局 〒105-0004 東京都港区新橋 2-3-7 新橋第二中ビル 3 階 TEL 03-3508-1261, FAX 03-3581-6128 E-mail meeting@aesj.or.jp URL http://www.aesj.net/
--------	---